

東北 悩みの電話絶えず

被災者「眠れない」「生きていけないか……」

東北一の繁華街・仙台市青葉区国分町に、公益社団法人「日本駆け込み寺」(東京都新宿区)が支部を開設して半年が経過した。東日本大震災から1年10か月が過ぎようとする今も、津波で家族や仕事を失った被災者などから連日、悩みの電話が寄せられている。

「駆け込み寺」 仙台開設半年

電話相談を受ける「国分町駆け込み寺」支部長の中島さん。「遠慮せずに相談してほしい」と話す(9日、仙台市青葉区国分町で)



「震災で仕事を失ってから定職に就けない。これから生きていけないか不安」
日が暮れるとネオンの明かりに包まれる国分町の雑居ビルに事務所を構える「国分町駆け込み寺」。昨年暮れ、宮城県沿岸部に住む男性が、沈んだ声で電話をかけてきた。
街が慌ただしさを増す年

未成年始、働き盛りの世代の男性から同じような電話相談が相次いで寄せられた。復興需要をあてこんで関西から仕事を探しにやっってきたものの、体調を崩して仕事ができなくなった男性は、直接事務所を訪ねてきた。

同法人は、2002年に設立されたNPO法人「日本ソーシャル・マイノリティ協会」が前身で、新宿・歌舞伎町に事務所を構えて自殺や金銭トラブル、暴力などの悩みの相談に2万件以上応じてきた。

震災後は被災地からの相談が多く寄せられ、「東北の人ならば誰でも知っている」と、国分町に支部をつくることを決めた。被災地で直接相談に乗れるようにと現地にスタッフを置いた。昨年7月7日に開設すると、家族や友人を失った被災者たちは「ショックで眠れない」などと口々に訴えた。

電話や面接、メールなどで、多い日には10件近くの相談がある。支部長の中島一茂さん(44)がスタッフと2人で応じる。相談者は中学生から80歳代まで幅広い。これまで600件以上の相談を受け付けてきたが、増加しつつあるという。中島さんは「東北の人は我慢強い

と言われるが、一人で悩みを抱え込んでいる人が多い。震災で大切な家族や仕事を失った苦しみを、遠慮せず打ち明けてほしい」と話している。

国分町駆け込み寺の開所時間は、平日午前10時〜午後6時。電話は、022・395・7740。